

費用対効果分析の結果

－国営農地再編整備事業「亀岡地区」－

1. 地区の概要

- (1) 受益面積：508.7ha
 (2) 事業目的：区画整理、農地造成
 (3) 主要工事計画：区画整理503.1ha、農地造成5.6ha
 幹線用水路9.2km、幹線排水路6.3km、幹線道路3.4km
 (4) 総事業費 19,238百万円^{注1)}
 うち国営事業費 19,238百万円
 うち関連事業費 ー百万円

2. 妥当投資額の算定

(1) 年総効果額

(単位：百万円)

効果項目	年総効果額	効果の要因
作物生産効果	155	ほ場条件の改善及び高収益作物の導入等による作物生産量の増加
営農経費節減効果	521	ほ場条件の改善に伴う労働時間及び機械経費等の節減
維持管理費節減効果	56	施設の新設、改良、廃止による維持管理費の増減
更新効果	212	施設の改良による現況施設機能(従前の農業生産)の維持
非農用地等創設効果	8	用地取得経費及び登記手続き等の事務経費節減
文化財発見効果	77	埋蔵文化財の具現化及び文化的価値の明確化
公共施設保全効果	176	付け替え河川(幹線排水路)の建設による更新効果及び維持管理費の増減
地籍確定効果	6	区画整理に伴う地籍の明確化
水辺環境整備効果	9	周辺景観及び環境に配慮することによる水辺環境の保全、創出
計	1,220	
廃用損失額	▲61	事業により既存の水利施設が廃止されることに伴う損失額

(2) 妥当投資額

$$\begin{aligned}
 \text{妥当投資額} &= \frac{\text{年総効果額}}{\text{還元率} \times (1 + \text{建設利息率})} - \text{廃用損失額} \\
 &= \frac{\text{年総効果額}}{\text{還元率} \times (1 + \text{農家負担率} \times \text{調整係数} \times \text{利率} \times \text{T値}^{\text{注2)})} - \text{廃用損失額} \\
 &= \frac{1,220 \text{ 百万円}}{0.0491 \times (1 + 0.25 \times 0.4 \times 0.065 \times 10)} - 61 \text{ 百万円} \\
 &= \frac{1,220 \text{ 百万円}}{0.0523} - 61 \text{ 百万円} \\
 &= \boxed{23,262 \text{ 百万円}}
 \end{aligned}$$

3. 投資効率の算定

$$\begin{aligned}
 \text{投資効率} &= \frac{\text{妥当投資額}}{\text{総事業費}} = \frac{23,262 \text{ 百万円}}{19,238 \text{ 百万円}} \\
 &= \boxed{1.20} \geq 1.00
 \end{aligned}$$

注1) 総事業費は、再評価時点の事業費に換算したものである。

注2) T値は、事業着手から一部効果が発生するまでの年数(10)である。